

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.
12
2009.3

弘前大学創立60周年記念特集

学長インタビュー

**創立60周年を機に新たなる明日へ、
地域と世界をつなぐ研究拠点として。**

弘前大学施設紹介

[弘前大学]サイエンス・パーク

北日本新エネルギー研究センター
エネルギー維新を推進する
弘前大学の新しい研究開発拠点

[学内トピックス]話題の広場から
第8回弘前大学総合文化祭 他

平成20年度「弘前大学ドリーム講座」

「弘大オリジナル商品」

創立60周年を機に新たなる明日へ、 地域と世界をつなぐ研究拠点として。

「世界に発信し、地域と共に創造する」を合言葉に魅力あふれる大学づくりを進める弘前大学ではインテリジェントビル（仮称）の建設、白神自然観察園の設置、科学者発見プロジェクトなど、創立 60 周年記念事業がダイナミックに動いている。多彩な事業の先に見えてくる弘前大学の近未来の展望を聞いた。

60 周年を機に 新たなる明日へ出発

——弘前大学の 60 回目の開学記念日が近づいてきましたね。

弘前大学は、昭和 24 年（1949）5 月 31 日に誕生し、人間でいえば今年が還暦ですが、国立大学法人になって大学改革を進めている最中ですから、一息つくヒマはありません。60 周年を機に新しく生まれ変わる気持ちで記念事業に取り組んでいます。詞と曲を全国から公募した記念歌も「新たな明日へ」（作詞・辻茂 作曲・館内聖美）が最優秀作品に選ばれ、6 月 6 日の創立 60 周年記念式典で弘前大学フィルハーモニー管弦楽団および弘前大学混声合唱団により披露されることになっています。

——記念歌の公募もそうですが、記念事業は話題満載ですね。

今回の記念事業の趣旨は、本学が集積してきた叡智や人材、施設等を広く開放し、世界の動きとリンクしながら今日的なテーマである地域の再生に貢献することです。そして、この趣旨にそって記念建造物の設置事業や研究・産学連携事業、学生参加事業等を、それぞれの専門委員会が企画しています。なかでも文京キャンパスのコラボレーションセンターの隣（富田大通り側）に建設中のインテリジェントビル（仮称）や世界遺産である白神山地に設置した弘前大学白神自然観察園は、学外からも大きな期待を集めています。

次世代への可能性を切り開く

——インテリジェントビル（仮称）はどんな建物になるのですか。

8 階建のビル（延べ床面積 3,765 m²）で、フロアーキーワードは、1 階が喫茶コーナー、コミュニティスペース、2 階が機器分析センター、3 階が社会連携課・研究推進課、4 階が大学院地域社会研究科、生涯学習教育研究センター、5 階から 7 階がレンタルラボ、放送大学、8 階が多目的ホール。本学の社会連携関係諸施設やセンターを集中的に配置するとともに、共同研究を行うスペースを貸し出す「レンタルラボ」や放送大学が入り、地域住民が訪れやすい環境を整えているのが特長です。

また、ここを手狭になった人文学部の講義室に転用できるし、放送大学の移った後の創立 50 周年記念会館や附属図書館、機器分析センターの移った理工学部、農学生命科学部の空室等も他の用途に活用できることから、学内の教育環境の整備にも地域の活性化にとってもインテリジェントビル（仮称）の波及効果は大きく、次世代への可能性を切り開く場として活用されることを願っています。

——世界的な工芸作家である宮田亮平東京藝術大学長の作品がインテリジェントビル（仮称）に展示されるそうですが。

1 階のエントランスロビーに「球体スクリーンシステム」と宮田先生の鍛金作品を展示します。宮田先生のイルカをモチーフにした「シュプリング」シリーズは私も大好きで、怖い物知らずと言いますかね、学長会議でたまたま宮田先生の隣に座った時、「先生、作ってくれませんか」とお願いしたら、「ああ、いいですよ」と快く引き受けて下さいました。他の学長にその話をしたら「よく引き受けてもらえたな」と羨望の

的になりました。

——インテリジェントビル（仮称）のシンボルになりそうですね。

それだけでなく自由で革新的な気風をもつ文京キャンパス全体のシンボルになると思います。宮田先生は、昨年 11 月 4 日に弘前市で開催された国立大学協会の総会に出席され、翌日の白神山地見学会にも参加されました。周囲に岩木山や白神山地があり、城下町にとけ込んだ本学の環境が大変気に入られた様子でしたので、どんな作品ができあがるのか、わくわくしながら待っています。



世界自然遺産「白神山地」見学会にて。遠藤学長（向かって左から二人目）、宮田学長（向かって右から二人目）。

生徒・児童、一般市民を 巻き込む多彩な事業

——白神自然観察園の設置も注目されています。

これは、青森県西目屋村川原平の「不識の塔」周辺に民間から借用した 17ha の土地を活用し、世界自然遺産に登録された白神山地の自然とそこに営む地域の人達の生活をテーマにした教育と研究のための植物園です。具体的な計画は、弘前大学白神自然観察園（園長：佐々木長市農学生命科学部教授）の運営委員会に依頼して検討中ですが、平成 21 年度の文部科学省予算により設置します。

学生や生徒・児童を対象とした自然環境



弘前大学インテリジェントビル
(仮称) 完成予想図



エントランスホール



遠藤正彦 学長

1963年弘前大学医学部卒業、68年東北大学大学院医学研究科修了。医学博士(医化学一般・病態医化学・構造生物化学)。東北大学医学部助手、講師を経て、75年弘前大学医学部助教授、81年教授、96年医学部長、02年2月学長に就任。06年2月から学長2期目。柔軟な発想で大学改革の先頭に立ち、活力と創造力にみちた人材育成に取り組む。

教育や一般市民を対象とした公開講座などの開放事業を行い、実地教育の場や社会貢献の場として活用すると同時に、自然科学だけでなく人文科学の面からも研究を進める拠点として活用します。

——単なる研究の場でなく学生や生徒・児童、一般市民が参加できる植物園です。

実はそれが今回の記念事業の重要なテーマの一つで、たとえば科学者発見プロジェクトは、子供たちの物事に対する疑問や興味、アイデア等を青森県内の小・中・高生から広く募集し、その提案に基づいた研究テーマを本学研究者と共に体験する双方向的なプロジェクトです。

魅力あふれる 大学づくりの主役は学生

それから創立60周年記念式典の運営にも学生が教職員と共に参画し、学生からの提案を受けて、従来から行っている総合文化祭や芸術祭、言語力大賞のほかに60周年記念の学生シンポジウムやスポーツ大会、レクリエーション大会等も予定しています。

——主役は学生であり、未来の学生である生徒・児童ということでしょうか。

そうです。言うまでもなく大学の第一の使命は、社会から必要とされ、地域に貢献し、世界の場で活躍できる優秀な人材を育成することです。本学は、人文学部、教

育学部、医学部、理工学部、農学生命科学部の5学部から成る総合大学で、学生の総定員は5,750名です。少子高齢化社会が進行する中でこの定員を維持し、持続的に発展を続けるためには学生にとっても一般市民にとっても、また教職員にとっても魅力あふれる大学づくりが必要です。そして、これは私の持論ですが、人が群れて語り合い、わいわい騒げるところでなければ学生は来ません。首都圏の有名大学でも再びキャンパスを郊外から都心へ移転するところができました。言い換えると、白神山地に象徴される豊かな自然と弘前という都市の賑わい、その両方が本学の発展に不可欠であり、豊かな自然の保全と地域再生が60周年記念事業の最大の眼目です。

地域と世界をつなぐ 幅広い研究拠点

——最後に60周年記念事業の先にある弘前大学の近未来像を聞かせて下さい。

「交流広く 門を開け/世界と共に 歩み行く」と、60周年記念歌の歌詞にあるとおり、弘前大学は、今まさに新たな明日へ出発する時を迎えています。おりしも、青森市に「弘前大学北日本新エネルギー研究センター」を本年3月に開設し、県や企業、他大学と密接な連携をはかりながら新しいエネルギーの研究・開発に取り

組みます。また、本学医学部附属病院では、2010年7月に緊急被ばく医療を盛り込んだ高度救命救急センターの開設を目指しており、我が国の緊急被ばく医療の発展に貢献するため「緊急被ばく医療に関する協力協定」を独立行政法人放射線医学総合研究所と締結し、この分野でもユニークで先進的な研究を進めていきます。つまり、弘前を拠点としながらも外へ打って出ることによって、地域と世界をつなぐ幅広い活動の場を学生並びに教職員に用意し、さらなる発展をはかりたいと考えております。

60周年記念の主な事業

- ・ 記念式典祝賀行事
- ・ 60周年記念演奏会
- ・ 60周年史編纂事業(歴代学長式辞告辞集等の編纂)
- ・ 60周年記念歌の制作
- ・ 60周年記念建造物等の設置(「太宰治」記念碑の制作、宮田東京芸術大学長作製のモニュメント、インテリジェントビル(仮称)の建設、弘前大学白神自然観察園の設置)
- ・ 研究・産学連携事業(科学者発見プロジェクト、国際シンポジウム等)
- ・ 学生支援事業
- ・ 国際交流事業
- ・ 学生参加事業
- ・ 弘前大学鷹揚さくら会総会の開催

科学のチカラ、科学のワクワクを 体感できる、全国初の 「みんなで育てるサイエンス・パーク」

子供たちの理科離れを食い止めたいという願いから企画された「弘前大学サイエンス・パーク」が注目を集めている。地球が回っていることを確認できる日本一長いフーコー振り子や最先端の地熱利用融雪装置など文京キャンパス全体を博物館として開放している。その趣旨と今後の整備計画を聞いた。

キャンパスが博物館になる

——「キャンパスを博物館に」というのは面白い発想ですね。

弘前大学の構内にはいろんな記念碑があります。弘前大学になってから建立された記念碑が7基、それ以前に建立された「旧官立弘前高等学校創立10周年記念碑」などが2基、そこに60周年記念事業で「太宰治」記念碑が加わりますから。

また、開学以来、さまざまな樹木が構内に植えられてきましたが、サイエンス・パークの整備にあわせて樹木の形や高さを整え、樹名板も整備しましたから構内を散策しながら文学散歩と植物観察の両方を楽しむことができます。

サイエンス・パークは、それらの記念碑に科学のチカラをプラスすることによって、児童や生徒、市民の皆さんに科学の面白さを体感し、関心を高めてもらうことが大きな目的です。

——博物館は各地にあります。サイエンス・パークのようにオープンな施設は弘前大学だけですね。

箱物の博物館や科学館は、もう限界ですね。私は、国立科学博物館で総務部長として働いた経験がありますからよくわかるのですが、箱物はどこも利用者が頭打ちで、展示の企画や施設の運営で四苦八苦しています。一方、サイエンス・パークは、本学の理工学研究科、農学生命科学部、教育学部、人文学部が培ってきた学術や貴重な資料を既存の施設に展示し、必要

に応じて教員や学生がガイド役を努めますから、より身近に科学のチカラにふれることができます。

また、野外に設置したハイブリッド灯屋外照明やソーラー電池時計塔、あるいは理工学部通用門に設置した地熱利用融雪装置等は、新エネルギーの研究成果を具現化し、地域社会や企業に対するプレゼンテーションの意味も持っていますから、ある程度の資本を投下して整備を進めています。

地球の動きをリアルタイムに体感する

——特にお勧めの展示物は何ですか。

それぞれが意義のある展示物ですが、今年6月に開館する弘前大学インテリジェントビル（仮称）の1階に設置される「球体スクリーンシステム」は大きな反響を集めるでしょうね。これは、インターネットで送られてくる世界中の地震情報や雲の動き、気温分布等をリアルタイムで球体スクリーンに投影すると同時に、交流コンテンツとして弘前ねぶたや観光スポット、さらには自分がお気に入りの景観等を投影することもできます。いわば地球の動きと地域の動きをリアルタイムで楽しめる最新の映像システムです。

——そうしますとインテリジェントビル（仮称）もサイエンス・パークの一部ですね。

一部分と言うよりもサイエンス・パークの拠点施設ですね。1階のエントランス口

ビーには球体スクリーンを核として地球を俯瞰し、別世界に浸ることができるコーナーを設けるほか、喫茶コーナーを設置して地域の皆さんにも利用していただこうとメニューにも気を配っています。

ですからインテリジェントビルといういかめしい名称ではなく親しみやすい名前を公募し、現在選考作業をしている最中です。

未来の学生を育てる多彩なプログラム

——ところでサイエンス・パークは、若い人たちの理科離れを食い止めたいという願いから生まれたということですが。

企画の原点はそこにあります。ですから弘前大学では、サイエンス・パークに来て科学のチカラやワクワクする気持ちを体感してもらうと同時に、青森県における小・中・高等学校を対象とした教育力向上プロジェクトとして「ラボ・バス」を用いた教育実践を行っております。

これは、弘前大学と青森県との包括協定の下で青森県教育委員会等と連携して、下北・三八地域等の県内遠隔地へ、最先端の教材や機器を搭載した「ラボ・バス」を派遣し、児童・生徒に「学び」の楽しさを伝えるとともに、現職教員の研修の場を提供する事業で、教育現場における実践経験が限られている学生・大学院生にとっても貴重な経験の場となっています。

また、60周年記念事業の一つである「科学者発見プロジェクト」では、謎を解くことや関心事を探求するプロセスを共同研究体験やメール通信等を通じて体験し、大学をより身近に感じて親しみをもってもらい、入学希望の動機付けの一助となることを期待しています。

要するにこれらの事業は、地域貢献と同時に未来の学生や教職員を育成する事業でもあるのです。

みんなで育て共に成長する

——そうしますとサイエンス・パークもかなり先を見据えたプログラムですね。

ですから、「はい、博物館を作りましたよ。さあ見に来て下さい」という従来の箱物の発想とは根本的に違い、サイエンス・パークはこれからみんなで育てて行く枠のない博物館であり、時間と共に成長し、たえず増殖していく博物館です。昨年、一定の整備をして9月16日にオープンセ

レモニーを開催しましたが、そこを出発点としてこれから成長していくオープンな博物館です。

——子供たちと一緒に成長して行くわけですね。

ここで科学のチカラやワクワクを体感した児童・生徒が本学に入学し、やがて自分が次の世代を育てる人間となって、サイエンス・パークをいつも新鮮でより楽しいものにしてほしい。共に成長し、共に育てる、開かれた博物館であってほしい。そのための土台を創立60周年記念事業を通して整備したいと考えています。



小川清四郎 財務・施設担当理事兼副学長

文部科学省、国立科学博物館総務部長、京都大学企画調整官、福岡教育大学事務局長を経て、2006年2月弘前大学財務・施設担当理事兼事務局長、06年8月から財務・施設担当理事兼副学長として中期目標・中期計画の完遂と60周年記念事業の推進に努める。



人文学部展示場

亀ヶ岡式土器や弘前藩の米切手、アフリカン・クラフトなど多彩な展示内容です。



教育学部展示場

青森県の絶滅危惧生物ニホンザリガニや地質標本など興味深い展示物。



フーコー振り子

1851年、フランス人のレオン・フーコーは振り子を用いて地球が回っていることを証明しました。本学が設置した日本一長いフーコー振り子により地球の自転を確認することができます。



総合窓口 (旧制弘前高等学校外国人教師館)



ハイブリッド灯屋外照明 (太陽電池・風力発電)



ソーラー電池時計塔



地熱利用融雪装置

地下深くに埋設したパイプに水を循環させて地熱を取り込み、地下直下に埋設したパイプより放熱して融雪を行う設備です。

サイエンス・パーク総合案内

旧制弘前高等学校外国人教師館

連絡先 電話・FAX0172-39-3980

E-mail : jm3980@cc.hirosaki-u.ac.jp

開館日 年末年始を除く毎日

会館時間 午前9時～午後4時

※ 各学部等の見学時間は、午前9時から午後5時までです。

地熱・海洋・バイオマス 等の活用で地域を再生し、 エネルギー維新を推進する 弘前大学の新しい 研究開発拠点

低炭素社会の実現に向けた世界の潮流が高まる中、化石燃料に替わるエネルギーの開発は、地域再生・雇用創出の切り札として注目を集めている。弘前大学が産官学の連携し、他大学とも共同で新エネルギーの研究開発を進めるため青森市に開設した北日本新エネルギー研究センターの理念と展望をレポートする。



南條宏肇 (なんじょうひろただ)

学長特別補佐・理学博士

1972年東京大学宇宙線観測所を経て、76年弘前大学理学部助手、92年弘前大学理学部教授、04年弘前大学理工学部長、08年弘前大学学長特別補佐。専門は宇宙線の研究、自然エネルギー。現在は地熱利用融雪、海流発電、小型風力発電等の研究開発を進めている。

マイナスの条件をプラスに 変える逆転の発想

——いよいよ北日本新エネルギー研究センターが動き出しましたね。

世界的な不況とオバマ大統領のグリーンニューディール政策で時代の焦点になったと言いますか、「地域再生＝日本再生＝地球再生」という形で、地域と地球がつながった感じですね。CO₂の排出削減も待たなし、新エネルギーの研究開発も時間との競争が始まって、猛烈な忙しさです。そうしようと思って準備してきたわけでないけど、大学の動きと世界の潮流がぴったり重なりました。

——北日本新エネルギー研究センターの発想の原点は何ですか。

青森県をはじめ北海道、秋田県、岩手県などの北日本は、高齢化に加え若者の人口流出が激しく、また農業など第一次産業の就業人口も減り続けています。さらに最近の経済危機により都会での就職も難しくなり、世界同時不況の影響もろに受けて地域は大変厳しい状況に直面しています。ところが、視点を変えると、北日本は食料自給率が高く、海洋、地熱、

風力、バイオマス等の国内最大級の豊富なエネルギー資源を持っています。

これらの資源を活用して未利用エネルギーの熱利用開発や電力安定供給のための電池の性能テストなど、新分野の研究開発を進め、地域における新産業を創出し、地域の経済を活性化させる。いわば積雪寒冷地という厳しい気象条件や地理的なマイナスの条件をプラスに変える逆転の発想ですね。

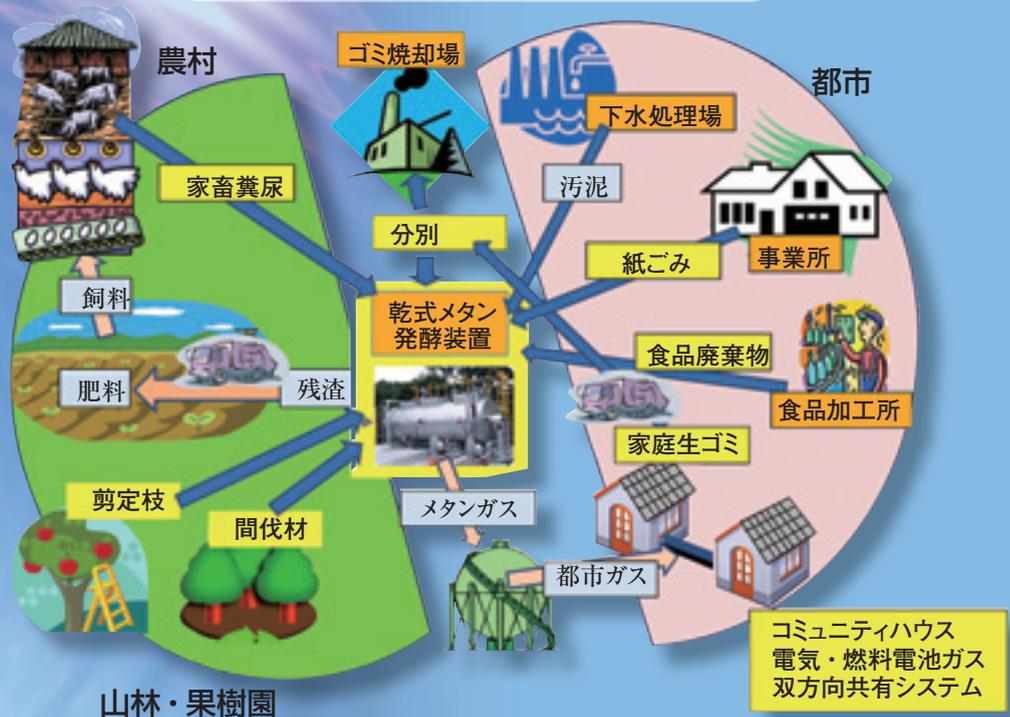
新エネルギーは 地産地消型が最適

——新聞報道などでは「地産地消を目指す」と言われていますが。

新エネルギーは、地熱にしても風力にしても密度が薄く輸送が困難です。送電のロスや貯蓄ができない等の課題がありますが、新エネルギーを生産した地域で利用するシステムを開発すればこれらの課題をクリアできます。「地産地消」というのはそういうことです。

そして、その取り組みはすでに青森県で始まっています。たとえば、弘前大学理工学部の通用門に設置した地熱利用融雪実験システムは、地中に深く埋め込んだ特殊採熱管を通して地熱を取り込み、

バイオマスエネルギー循環モデル



融雪部分のパイプから放熱することによって地表の雪を融かし、凍結防止を行っています。また、海流発電やバイオマスの活用実験も始まっています。

つまり、地産地消型の新エネルギーを活用して資源循環型の農業を確立させ、新産業を創出することで、自然環境が豊かな青森県は自立が可能な地域になります。新エネルギーで地域を再生し、それを日本再生、地球再生へつなげたい。そういう夢をもって動いています。

青森市を拠点に産官学 および他大学と連携

——この研究センターを青森市に開設した理由は何ですか。

遠藤学長が言われるように、弘前大学としては将来の発展を見据えて「外へ打って出る」という側面もありますが、産官学の連携や他大学との共同研究を進める上で地の利がありますし、青森市は都市と農村が隣接していますから地産地消型の新エネルギーを研究開発するには最適の場所なのです。都市と農村の循環モデル(上図参照)を見てもらえば一目瞭然ですが、新エネルギーの原料は自然資源だけでなく都市と農村の双方から出てきますし、それをエネルギーに変換して双方へ供給することで採算性を向上させることができます。

——他大学との連携はどうなっていますか。



青森公立大学、東北大学、東京大学など県内外の大学にも協力してもらいますし、青森県や東北経済産業局、さらには「新エネルギー国家・日本の創生」をテーマに国家プロジェクトのグランドデザインを描いている東京大学の湯原哲夫先生からも大きな支援を頂いております。そして、こ

の研究センターでは新エネルギー研究に関する専任教員を4人配置することとしています。これは大学として画期的なことです。

志をもってエネルギー維新に チャレンジ

——南條先生は学長特別補佐として同センターの立ち上げに奔走されていますね。

これまでの経緯もありますからそういうことになりましたが、新しいことを起動させる時は生みの苦しみがあり、大変なエネルギーが必要です。もうそろそろマイペースで好きな研究をしたいと思うこともあります。しかし、新エネルギーの研究開発にはそれを上回る面白さがあります。新しい日本のグランドデザインを描く、という志を持って、自分の利益や損得を超えたところでみんなが動いています。

そういう意味で新エネルギーの研究開発はエネルギー維新だと思っています。若い学生たちにもどんどん仲間になってほしいですね。

「教員免許状更新講習支援室」 看板上掲式を挙行

10月1日付けで「教員免許状更新講習支援室」が設置されたことに伴う看板上掲式が10月6日、総合教育棟玄関前で執り行われました。

当日は、遠藤学長、須藤副学長、村山教員免許状更新講習支援室長、小野寺同副支援室長、長南同副支援室長、和田学務部長など多数出席し、遠藤学長、村山室長が総合教育棟玄関に「教員免許状更新講習支援室」の看板を掲げました。

「教員免許状更新講習支援室」は、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入されることを受け、弘前大学が教員免許状更新講習を開講するために設置されました。

教職課程認定大学として充実した内容の講習を提供することで、受講者である現職教員等とはもとより、本学及び地域社会へ大きく貢献できるものと期待されます。



看板を掲げる遠藤学長(右)、村山室長

弘前大学創立60周年記念第1回研究テーマ募集事業 「科学者発見プロジェクトテーマ賞」の表彰式を開催

10月26日、弘前大学総合教育棟2階大会議室に於いて、創立60周年記念第1回研究テーマ募集事業「科学者発見プロジェクトテーマ賞」の表彰式を開催しました。

本事業は、日常のささいな「疑問や興味、アイデア等」を青森県内の小・中・高生に広く求め、その提案に基づいた研究テーマを本学研究者と共に体験する双方向的な試みであり、この事業により行われる交流は弘前大学の地域貢献の一環でもあります。

子どもたちにとっては、自身が提案した研究テーマの「謎を解き、関心事を探求するプロセス」を研究者と共に体験することで、大学をより身近に感じ親しみをもってもらうこと、また研究者にとっては、思いもよらない視点での疑問やアイデアを知り、研究活動の良い刺激となることを期待しています。

研究テーマの募集の結果、134件の応募があり、発展性、意外性、独創性に優れた研

究テーマ「納豆のおいしさの限界(県立高校1年生提案)」をはじめ、17件(小学校低学年1件、高学年3件、中学校10件、高校3件)が「科学者発見プロジェクトテーマ賞」に採択されました。

表彰式では、出席した8テーマの団体、個人の子どもたちの他、学校関係者及び保護者など多数が見守るなか、遠藤学長の挨拶、加藤理事の講評の後、受賞者を代表して、平川市立柏木小学校第2学年の皆さんから受賞のお礼がありました。

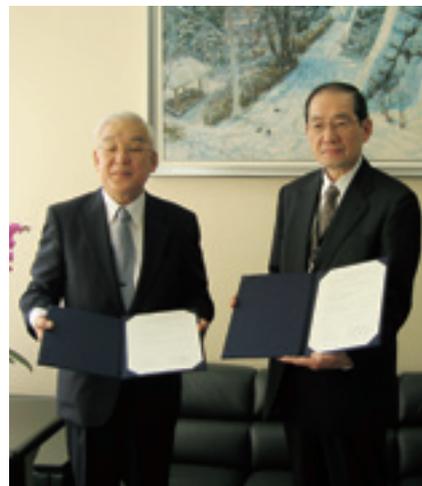
「県内全域から、小学校～高校まで広範囲に、分野を限定せず」のスローガンの下、広く子どもたちの興味をすくいあげ、発展を手助けし、夢を持たせるきっかけづくりとなるべく事業を開始したが、表彰式に出席した子どもたちは、まさしく「科学者発見プロジェクト」事業が期待する未来の「小さな科学者」を連想させるものでありました。

放射線医学総合研究所と緊急被ばく医療に 関する協力協定を締結

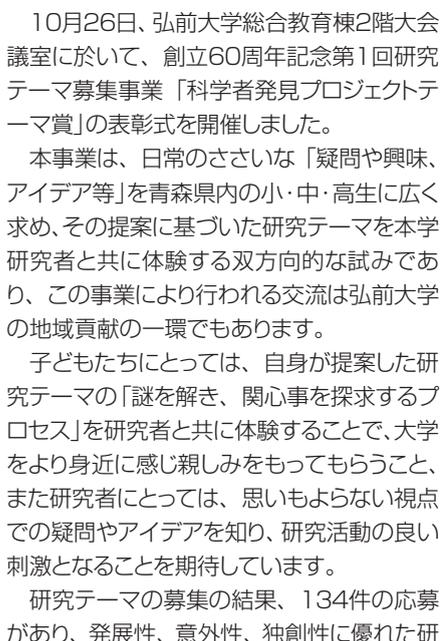
本学では、青森県内に立地する原子力施設での万一の事故に備え、緊急被ばく医療体制の整備に取り組んでいますが、10月2日、教育活動の充実や、我が国の緊急被ばく医療の発展、継承に貢献するため「緊急被ばく医療に関する協力協定」を独立行政法人放射線医学総合研究所と締結しました。

平成20年3月には、放射線医学総合研究所で看護師、保健師、医師、作業療法士ら弘前大学院保健学研究科の教員の被ばく医療セミナーを実施し、既に被ばく医療人材育成教育、研究に関する取り組みを開始しています。

協力内容は(1)職員、研究員、学生、研究生等の交流に関すること(2)研究資料、刊行物および研究情報の交換等に関すること(3)施設および設備の共同利用に関すること(4)被ばく患者の治療に関すること一の4項目。本学は、緊急被ばく医療分野における相互の教育、研究協力をより強力に推進し、2010年7月に緊急被ばく医療の可能な高度救命救急センターの開設を目指しています。



遠藤学長(左)と米倉放医研理事長



表彰状授与に先立ち、挨拶する遠藤学長



記念写真におさまる受賞者の皆さん

第8回弘前大学総合文化祭 ～「テーマは『太陽』」～



遠藤学長の開祭宣言

第8回弘前大学総合文化祭が10月24日～26日の3日間にわたり、開催されました。

今年のテーマ『太陽』には”笑顔の伝播”という意味が込められており、来場者だけでなく、弘大祭に少しでも関わった方々に心から笑顔になって欲しいという思いから掲げられました。

今年も従来同様、学生主体の「第59回弘大祭」と学部・教職員の「第8回学術文化祭」が一体となり弘前大学挙げての開催となりました。

オープニングフェスティバルでは、集まった大勢の観客を前に総合文化祭推進委員会委員長の遠藤学長が声高らかに開祭宣言し華々しくスタートしました。

期間中は、職員たちの芸術作品を展示した「職員芸術・造形作品展」や県内各地から計8チームが集まり、華麗な演舞を披露した「よさこい弘大」、音楽系サークルによる「コラボコンサート」、文京町キャンパスを舞台に熱戦が繰り広げられた「駅伝大会」といったメインイベントの他、一般来場者が参加できる「ビンゴ」や「カラオケ大会」、「スタンプラリー」など多彩な催しが開かれました。



観客で賑わうメインストリート

また、昨年同様、包括協定を締結している弘前市により行われた「地元産農産物販売、りんごジュース無料試飲会」や、青森で採れた海と山の幸の紹介及び販売を行った「鱈ヶ沢物産展フェア」にも多くの来場者が訪れ大盛況でした。

弘前大学後援会からの助成によるキャンパス内外を彩る幟、提灯も掲げられ、お祭りムードを盛り上げていました。期間中は県内外の大勢の皆様がキャンパスを訪れ、ファイナルフェスティバル後のじゃんけん大会、そして花火の打ち上げ等々…今年も大成功で閉会しました。

学生、教職員、地域住民が一体となり本学の更なる飛躍が感じられる3日間となりました。



弘前大学よさこいサークル



駅伝大会



弘前市によるりんご即売会



鱈ヶ沢物産展フェア

世界遺産「白神山地」見学会を実施

11月4日に開催された国立大学協会総会に併せて、翌11月5日に世界遺産である白神山地の見学会を実施しました。

見学会には全国から集まった国立大学長等が参加し、牧田肇弘前大学名誉教授等のガイドにより、ブナ林や野生の動物など大自然を満喫しました。当日は、天候にも恵まれ、2時間程度の散策を終えた参加者からは「白神山地の豊かな自然を満喫し、貴重な体験ができて良かった」などの声が聞かれました。白神山地は青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山地帯の総称。本学ではこのほど白神山地を対象に自然・人文科学の両面から研究することを目的とした白神自然観察園の設置を予定(4/1)しており、文理融合型の研究拠点として期待されています。



「北日本新エネルギー研究センター」シンポジウム開催

北日本新エネルギー研究センターのシンポジウムを、「エネルギー維新と地域未来」をテーマに11月20日、青森市で開催しました。県内外の企業や行政関係者、研究者約百人が参加。遠藤学長は「地域を巻き込みながら、エネルギー産業の叡智を結集させたい」と挨拶しました。

シンポジウムでは、湯原哲夫東大特任教授、北澤宏一JST理事長、南條学長特別補

佐が基調講演を行い、続くパネルディスカッションでは、「地域におけるエネルギー産業」について南條学長特別補佐をコーディネーターに、湯原哲夫東大特任教授、松田従三北海道大名誉教授、鯉沼秀臣物質・材料研究機構特別顧問、香取薫青森公立大教授、藤田成隆八工大学長補佐がパネリストとなり、様々な分野からの意見が交わされました。

第二部である翌21日は、「エネルギー維

新に向けての基盤技術研究」と題し、弘前大学創立50周年記念会館でシンポジウムが開かれ、南條学長特別補佐をはじめ産学関係者らによる講演が行われました。参加者は、新エネルギー研究開発推進の必要性や新エネルギー利用システム技術に関する現状とその課題等について述べる講演者の発言に、熱心に聞き入っていました。



挨拶をする遠藤学長



パネルディスカッションの様子(南條学長特別補佐(左))

西目屋村と連携に関する協定を締結

12月22日に本学は西目屋村と、相互の密接な連携と協力により、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として、連携に関する協定を締結しました。

調印にあたって、関西目屋村長から、「協定締結を機に、白神自然観察園をはじめとして、総合的・包括的な連携を進め、西目屋村と弘前大学相互の発展に努力していきたい」との挨拶と、遠藤学長から、「本学では従前より白神山地と関わりを持ってきたところであり、これからさらに世界自然遺産である白神山地に深く関わっていくことは最も近い国立大学である本学としての責務であると考え、西目屋村との連携を進めていきたい」との挨拶がありました。

調印式には、西目屋村から長利教育長、西澤総務課長が、本学からは藁科総務担当理事、小川財務・施設担当理事、須藤教育・学生担当理事、加藤研究・産学連携担当理事、花田学長特別補佐の他、各部局長が同席しました。



「弘前大学走友会」に弘前大学表彰を授与

本学では、教育研究活動や大学改革の推進など、職務に熱心であった職員や大学の名誉を高めた職員や団体を弘前大学表彰で表彰しています。「弘前大学走友会」は平成13年度に本学に勤務する職員で結成された団体であり、走ることで親睦を図り、その喜びを共有することを目的としており、現在の会員は12名(うち女子3名、このほかにOB7名)です。

これまでの活動は文部科学省関係機関等教職員駅伝競走大会への参加の他に、各種駅伝やマラソン大会へ参加しています。

文部科学省関係機関等教職員駅伝競走大会へは平成13年度～17年度まで5年連続出場しており、16年度の大会では5位入賞、2年ぶりの出場となった今年は、6位に入賞しました。

また、各種大会へ参加の際には、本学のスクールカラーである紫紺色のユニフォームを揃え参加するなど、本学の知名度の向上に貢献しています。

このたび、その活動が高く評価され表彰が決定し、12月22日に表彰式が行われました。走友会を代表して財務部財務企画課工藤慶伸係長に、遠藤学長から表彰状と記念品が贈られ、本学のネームバリュー向上への感謝と更なる活躍を期待する言葉が述べられました。



官立弘前高等学校資料整理作業チームに弘前大学表彰を授与

2月19日に官立弘前高等学校資料整理作業チームに表彰状と記念品が授与されました。

官立弘前高等学校資料整理作業チームは長谷川成一附属図書館長(人文学部教授)を責任者とし、大学院生3名、外部協力者1名、学術情報部職員4名で構成され、附属図書館に所蔵されていた本学の前身である官立弘前高等学校に関連する歴史的資料の収集及び整理保存を実施、資料総数1,055点を「官立弘前高等学校資料目録」にまとめました。この作業過程において、全国の国絵図研究に影響を与えると期待される「津軽領元禄国絵図写」の発見や、太宰治(本名:津島修治)に関する未公開資料の存在が明らかになるなど、この作業をとおして得られた成果は大きいものでありました。



平成20年度 弘前大学学生表彰一覧

【団体】

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

柔道部	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度東北学生柔道優勝大会女子団体戦で準優勝 平成20年度全日本学生柔道優勝大会出場
-----	--

社会活動で特に顕著な功績があった学生等

医学部保健学科 学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から、「学生委員会」として組織が強化され、執行委員長を中心に、「オープンキャンパス班」「総合文化祭企画運営班」「FDフォーラム企画運営班」の3班でそれぞれの事業活動を計画的・精力的に実施し、「FDフォーラム企画運営班」では、平成15年度から教員と共催という形で毎年12月に開催されている「保健学科FDフォーラム」を、学生委員会を中心として企画から運営までを担って開催した。 このように「学生委員会」の活動は、保健学科の教育を学生の立場から考え行動しようという趣旨のもとで、自主的に活動している点で、高く評価された。
------------------	---

社会活動で特に顕著な功績があった学生等及び課外活動で特に顕著な功績があった学生等

弘前大学 スティールパン部	<ul style="list-style-type: none"> リスペクトレコードをリリースし、特に沖縄で好評を博す。 (沖縄高良レコード11月第2週ヒットアルバムNo.1記録) 種々のイベントに参加し、メディアなどでも数多く取り上げられた。
弘前大学 津軽三味線 サークル	<ul style="list-style-type: none"> 浜松市楽器博物館レクチャーコンサート 弘前市リンゴ公園での定例演奏 ナクア白神ホテルでの演奏 その他各種イベントに参加 津軽三味線の大学団体は全国でも珍しく、本サークルが最大規模

【個人】

研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

澤田 恵理 教育学研究科1年	<ul style="list-style-type: none"> 「含フッ素高分子/酸化チタンナノコンポジットの調製と表面改質剤への応用」に関するポスター発表に対して、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞を平成20年12月6日に受賞。 (上記の研究成果に関する国内での学会発表6件、海外での学会発表2件を積極的に行っている。)
掛樋 浩司 理工学研究科 博士後期課程3年	<ul style="list-style-type: none"> 防汚(撥油)親水機能を示す新しいタイプのフッ素系高分子ナノコンポジット材料の合成とその機能の解明に関する研究を積極的に、かつ自主的に展開させてきている。その間の研究活動における特に顕著な研究成果として「フルオロアルキル基含有オリゴマーを用いた親水撥油性を示す改質膜の作製」に関する口頭発表に対して、日本化学会第88春季年会(2008)優秀講演賞(産業)を受賞
麦沢 正輝 理工学研究科 博士後期課程3年	<ul style="list-style-type: none"> フッ素系高分子化合物の合成とその機能の解明に関する研究をし、その成果を自ら執筆。査読付論文をインパクトファクターの高い(4.009)ジャーナルに2編投稿し、それぞれアクセプトされた点や、平成19年8月に米国のポストで開催された学会において英語で口頭発表を行うなど高い評価を受けている。

高橋 慶吾 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> 「下限臨界溶液温度特性を示すフルオロアルキル基含有オリゴマーの合成」に関する研究に対して、第56回高分子年次大会において依頼講演を行った。 「下限臨界溶液温度特性を示す含フッ素オリゴマー/メチレンブルーナノコンポジットの調製」に関するポスター発表に対して、2008年度色材協会研究発表会において優秀ポスター受賞
田嶋 司 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> 「特異な熱分解挙動を示す含フッ素高分子/シリカナノコンポジットの調製」に関するポスター発表に対して、2008年度色材協会研究発表会優秀ポスター受賞 「特異な熱分解挙動を示すフッ素高分子/シリカナノコンポジットの調製」に関する口頭発表に対して、2008年高分子学会東北支部研究会発表会において若手優秀発表賞受賞
後藤 勇貴 理工学研究科 博士前期課程1年	<ul style="list-style-type: none"> 「芳香族シロキサンセグメントをコアとした架橋性含フッ素高分子ナノコンポジットの調製と応用」に関するポスター発表に対して、2008年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター受賞
小川 俊 農学生命科学研究科2年	<ul style="list-style-type: none"> 学部卒業時に日本農芸化学会全国大会で発表したのを始め、大学院在学中に日本応用糖質科学会の全国大会で2回、日本農芸化学会東北支部大会で1回の計4回の発表の他、さらに日本農芸化学会全国大会で発表予定であり計5回発表の機会を得ており、高く評価された。またその研究成果の一部をまとめ上げ、国際誌"Protein Expression and Purification"に投稿、受理されている。現在修士論文をまとめており、この成果についても現在極めて評価の高い国際誌"FEBS Letters"への投稿を予定している。
阿部 美穂子 農学生命科学研究科1年	<ul style="list-style-type: none"> ダイズの一回結実性老化の制御機構に関する研究を行い、この老化制御に"エンハンサー"と呼ばれる分子が重要な働きをしていることを世界に先駆けて見出すとともに、その物質の正体を12-ヒドロキシジヤスモン酸であると特定した。この研究成果はダイズの生産拡大技術の開発に大きく貢献しうる。この研究成果は第7回新規素材探索研究会(2008.6.6, 新横浜)にて発表を行い、新規素材探索研究会奨励賞を受賞した。(受賞者3名のうち、他2名は静岡大助教と東大ポストドクター) また、中国北京で開催されるWorld Soybean Research Conference VIIIに発表予定
村松 大輔 農学生命科学研究科2年	<ul style="list-style-type: none"> 不可能と言われ続けてきたカイコの皮膚の培養系の確立を含め、実験には大変な労力と時間を費やし、修士課程1年終了までの成果を原著論文として発生生物学の一流国際誌に発表した。その功績が高く評価され、平成21年度学術振興会特別研究員DC1に面接免除で内定している。

社会活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

宮永 幸則 農学生命科学部4年	<ul style="list-style-type: none"> 第5回尾崎行雄(罌堂)杯全国青年演説会準優勝(2007) 第6回尾崎行雄(罌堂)杯全国青年演説会優勝(2008) 第5回日台交流青少年スカラシップ優秀賞 平成20年度JASSO(日本学生支援機構)優秀学生顕彰・奨励賞受賞
--------------------	---

特に優れた業績、功績等があったと認められる学生等

千島 洋明 人文学部4年	<ul style="list-style-type: none"> 公認会計士試験合格
越田 潤平 人文学部4年	<ul style="list-style-type: none"> 公認会計士試験合格
飯田 佐和子 農学生命科学部3年	<ul style="list-style-type: none"> 大学生協で行っている「読者マラソンコンクール」で弘前大学生としては初めてのナイスランナー賞を受賞

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

■体育系課外活動

寺田 奈津美 人文学部3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第37回東北学生陸上競技選手権大会 女子400mハードル 優勝 ・第37回東北学生陸上競技選手権大会 女子4×400m 3位
高柳 美久 教育学部3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回北日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400m 優勝 ・第37回東北学生陸上競技選手権大会 女子 走幅跳 優勝
遠沢 和加 教育学部2年	<p>【19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第58回東北地区大学総合体育大会陸上競技 女子やり投げ 優勝 ・第34回東北総合体育大会陸上競技(ミニ国体) 女子やり投げ 優勝 <p>【20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第61回東北学生陸上競技対校選手権大会 女子やり投げ 2位 ・第37回東北学生陸上競技選手権大会 女子やり投げ 2位 ・第59回東北地区大学総合体育大会陸上競技 女子やり投げ 2位
志田 瑞季 教育学部2年	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回北日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400m 優勝
亀田 亜美 教育学部1年	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回北日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400m 優勝
木村 美和子 教育学部1年	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回北日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400m 優勝
多和田 有紀 医学部医学科5年	<p>【19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回全日本大学女子駅伝 出場 ・全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 出場 <p>【20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップルマラソン フルマラソン女子の部優勝
佐藤 康典 教育学部2年	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子100m,200m バタフライ優勝
佐藤 直也 人文学部3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第41回東日本学生居合道大会準優勝 ・第23回加藤恒夫杯争奪居合道大会第3位
入川 望美 人文学部2年	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回全国各流居合道さくらぼ大会 女子初段の部 優勝
四茂野 恵奈 医学部医学科3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第38回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子シングルス、女子ダブルス3位 ・第51回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子団体3位



石野 瞳子 医学部医学科6年	<ul style="list-style-type: none"> ・第38回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス3位 ・第51回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子団体、女子シングルス3位
内田 康幸 医学部医学科3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回東日本医科系学生総合体育大会 空手道競技 個人組手準優勝
小林 麻美 医学部医学科5年	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回東日本医科系学生総合体育大会 空手道競技 女子個人形3位
小渡 亮介 医学部医学科5年	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回東日本医科系学生総合体育大会 空手道競技 男子組手、形優勝
工藤 啓晃 教育学部2年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度東北地区大学体育大会 空手道の部 男子団体組手2位
菊池 和成 農学生命科学部1年	<ul style="list-style-type: none"> ・北東北大学野球連盟秋季2部リーグ戦 外野部門ベストナイン
福田 めぐみ (昨年度) 教育学部4年	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本学生馬場馬術大会準優勝

■文化系課外活動

戸田 智子 教育学部4年	<ul style="list-style-type: none"> ・第18回日本クラシック音楽コンクール木管楽器部門全国大会で1位なしの2位に入賞
黒滝 春香 人文学部3年	<ul style="list-style-type: none"> ・第25回NHK全国大学放送コンテストアナウンス部門 2位



平成20年度「弘前大学ドリーム講座」を実施

本学は、高校生に「学ぶこと」の魅力、学ぶことを通じて将来の夢について考えを深める機会を提供する事を目的として、青森県内の高等学校を対象に「弘前大学ドリーム講座」を実施しました。

この講座は、各高校毎におよそ8名程度の研究分野の異なる教員が赴き、生徒たちがその中から自ら希望する分野の講義を選択して受講するというもので、平成20年度は7月か

ら12月までの間に、6校の高校で実施しました。受講した生徒たちは、日頃の授業とは違う大学の講義の雰囲気に興味津々の様子で耳を傾けていました。また、講座実施後には「大変熱心に教えてくださって、自分のためになりました」「先生の経験談がとても参考になりました。これからの進路に役立てたいと思います。」等の感想が寄せられました。

■7月2日(水) 野辺地高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
李 永俊	人文学部	准教授	経済学とは何かー大学でどのようなことを勉強するのかー	28
今井 正浩	人文学部	教授	自由についてーギリシャ哲学の視点からー	28
川崎 くみ子	医学部保健学科	講師	ケアとは	24
中里 博	理工学部	教授	地図ー球面を平面に写すー	23
佐野 輝男	農学生命科学部	教授	遺伝子からバイオテクまで	22

■9月2日(火) 田名部高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
石堂 哲也	人文学部	教授	考える楽しさ・知る喜び	20
カーベーター、ヴィクター、リー	人文学部	教授	食糧と国際社会	21
高島 克史	人文学部	講師	企業間競争を勝ちぬくためにーハンバーガー市場を事例としてー	25
和久 秀樹	教育学部	准教授	めざせ!教育プロフェッショナル	16
平岡 恭一	教育学部	教授	心理学ー見えない心を見えるようにするためにー	38
鈴木 光子	医学部保健学科	講師	看護ってな〜に!ー小児を看護する立場からー	24
中村 敏也	医学部保健学科	教授	ヒアルロン酸と細胞外マトリックス	36
有賀 義明	理工学部	教授	忘れた頃に必ずやって来る大地震と防災	13
佐川 貢一	理工学部	准教授	理工系学部で何をやっているのか(3次元動作解析)	24
大町 鉄雄	農学生命科学部	教授	生物学 基礎と応用ー生物を化学的に解明する面白さー	24

■10月28日(火) 青森北高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
林 明	人文学部	准教授	インドの魅力とガンディー	29
赤城 国臣	人文学部	教授	経済を考える、経済学を学ぶ	27
清水 紀人	教育学部	教授	スポーツコーチ学入門	53
古川 照美	医学部保健学科	講師	地域で暮らす人々のパートナーとしての看護職	32
石川 玲	医学部保健学科	准教授	理学療法教育の可能性について	33
氏家 良博	理工学部	教授	エネルギー資源の変遷について	29
菊池 英明	農学生命科学部	教授	遺伝子の発現と制御	13
福澤 雅志	農学生命科学部	准教授	モデル生物「細胞性粘菌」の生物学	17

■11月13日(木) 青森高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
北島 誓子	人文学部	教授	経済を考える、経済学を学ぶ	20
フルート、フォルカー、ミハエル	人文学部	准教授	「平和学」とは何か	21

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
小野寺 進	人文学部	准教授	『ガリヴァー旅行記』を読む	20
日野 辰哉	人文学部	准教授	法と社会をめぐる近年の動き	20
上谷 英史	医学部保健学科	講師	身体障がい者に対する作業療法と理学療法について	24
長岐 正彦	理工学部	准教授	酵素サイエンス〜インソプレノイドの世界〜	22
浅田 秀樹	理工学部	准教授	アインシュタインと宇宙物理のはなし	28
丹原 大介	理工学部	准教授	中国古代の方程式	15
葛西 身延	農学生命科学部	教授	光合成の科学	23

■11月19日(水) 三本木高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
木村 宣美	人文学部	教授	英語学とは何か	34
カーベーター、ヴィクター、リー	人文学部	教授	食糧と国際社会	18
岩田 一哲	人文学部	講師	コンビニエンス・ストアの経営戦略	22
和久 秀樹	教育学部	准教授	めざせ!教育プロフェッショナル	21
齋藤久美子	医学部保健学科	教授	看護とは	21
氏家 良博	理工学部	教授	エネルギー資源の変遷について	16
鳥飼 宏之	理工学部	准教授	生きている科学技術に挑戦しよう	72
高 晃	農学生命科学部	准教授	自然の恵みを化学する	24

■12月3日(水) 五所川原高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
石堂 哲也	人文学部	教授	考える楽しさ・知る喜び	37
池田 憲隆	人文学部	教授	経済学とは何か	28
松本 敏治	教育学部	教授	あなたのまわりの少し不思議な人たち LD, DHD, 高機能自閉症, アスペルガー	38
木立 るり子	医学部保健学科	准教授	高齢者と看護	33
深瀬 政秋	理工学部	教授	IT技術の基礎から最前線まで	34
柏木 明子	農学生命科学部	准教授	遺伝子のオンとオフ	25

講座数 / 46 講座 講師数 / 46 人 受講者数 / 1,215 名



「弘大オリジナル商品」

弘前大学生協は、附属農場産農産物を使用したオリジナルの商品の販売・商品開発を行っており、下記のような商品がございます。

- ①純米吟醸「弘前大学」 (金木農場産の豊盃米を使用した純米吟醸酒)
- ②アップルスナック (藤崎農場産の陸奥と王林で作ったスナック)
- ③リンゴジャム (藤崎農場産の紅玉で作ったジャム)
- ④アップルデザート (藤崎農場産のふじで作ったデザート)
- ⑤アップルケーキ (藤崎農場産ふじで作った菓子)

上記の他に今年は、弘前大学創立60周年を記念して本数500本限定で、日本酒「弘前大学」の大吟醸(3,200円)をつくり、3月末より販売するほか、農場産のリンゴや牛肉を使用した「農場アップルカレー」(仮称)等の商品を開発中です。このほかのオリジナル商品の情報は弘前大学生協ホームページに掲載しております。



①日本酒「弘前大学」&グラスセット

弘前大学オリジナル日本酒720ml
日本酒のみは2,000円となっております。

2,800円(税込)



②アップルスナック

一箱(37g×2袋入り)

630円(税込)



③紅玉ジャム

1瓶(230g)

500円(税込)



④アップルデザート

150g×6個

1,365円(税込)
(150g 1個210円)



⑤アップルケーキ

1個100g

180円(税込)

弘前大学
創立60周年記念

限定500本

「大吟醸」

720ml

3,200円(税込)も

3月末販売予定

創立60周年記念式典等祝賀行事

1 記念式典

日時：平成21年6月6日(土) 14:00～15:30
場所：弘前文化センター

2 記念学術講演会

日時：平成21年6月6日(土) 15:50～17:00
場所：弘前文化センター
講演者：宮田 亮平氏(東京藝術大学長)
演題：未定

3 記念祝賀会

日時：平成21年6月6日(土) 17:30～19:30
場所：ベストウェスタンホテルニューシティ弘前

4 インテリジェントビル(仮称)落成式

日時：平成21年6月6日(土) 12:30～13:00(予定)
場所：弘前大学文京キャンパス
(弘前大学インテリジェントビル [仮称])

5 「太宰 治」 記念碑除幕式

日時：平成21年6月6日(土) 13:00～13:20(予定)
場所：弘前大学文京キャンパス
(旧制弘前高等学校外国人教師館 隣)

6 創立60周年記念演奏会(一般の方も、ご来場できます。)

弘前大学の創立60周年を記念して、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団による市民の皆様を対象とした記念演奏会を開催します。
演奏：弘前大学フィルハーモニー管弦楽団
指揮：安達弘潮 弘前大学名誉教授

○弘前会場

日時：平成21年11月22日(日) 18:00～20:00
場所：弘前市民会館(入場無料)

○八戸会場

日時：平成21年12月6日(日) 13:30～15:30
場所：八戸市公会堂(入場無料)

弘前大学出版会からのご案内

白神山地の魅力

農学生命科学部附属白神研究センター編



A4判・72頁
定価1,050円

世界自然遺産白神山地を研究対象に、猿や小動物、ホタル、シラネアオイなどの昆虫や植物、微生物、遺伝子、土壌など多岐に渡る内容について、図や写真をふんだんに使い解説する。

その他、環境教育に関わりを持つ施設や環境教育に実際に取り組んでいる方々の事例も紹介し、現場で指導される先生方の利便性にも配慮した。小中学生を対象とした副読本的としてお薦めする一冊。

情報系の確率・統計

吉岡良雄



B5判・106頁
定価1,260円

統計学は、データを集め、そのデータを分析し、その性質を導く方法を取り扱う学問である。この基礎となっているのが確率および確率分布であり、情報系学科においては、データ処理を行うソフトウェア開発、コンピュータシステムの設計・特性解析、情報通信技術(ICT)、制御技術などにおいて、本書の内容が数多く適応され、非常に重要な基礎科目である。

本書は、情報系学科において、データ処理のためのソフトウェア開発やコンピュータシステムの動作解析に必要な数学的手法を与えることを到達目標とし、近年騒がれている新入学生の基礎学力不足も考慮し、高校で履修しなければならない数ⅢA・B・Cの内容から記述した大学1年生向け教科書である。

弘大ブックレットNo.5

津軽から発信! 国際協力キャリアを生きる JICA 編

人文学部 柑本英雄ゼミ4年 赤平大寿編/近藤麻衣編/富岡昂編/吉田美沙都編/柑本英雄監修/佐藤菜穂子監修



A5判・108頁
定価693円

本書では、脱サラして中南米で青年海外協力隊調整員を務めた相馬氏、カンボジアで命がけの地雷撤去活動に励む小形氏、若くしてUNESCO国際法規範の議論の現場を仕切る工藤氏、以上3人の津軽出身国際協力プロフェッショナルのキャリア作りを取り上げ、講演者3人が読者に語りかける形式で紹介する。彼らが人生の選択で直面した"不安や迷い"、"決断"とはなんだったのか。キャリア作りにかかせない要素を発見できる一冊。本学4年生の学生4人が編集を手掛けた渾身の力作。

白神研究 第5号

弘前大学白神研究会編



A4判・49頁
定価980円

本号の特集は「白神山地を次世代(子供たち)へ伝えるための取り組み」とし、その事例と教材化のヒントを紹介している。

また、連載の「白神研究会の観察会レポート」では、暗門-高倉森周辺で出会う様々な植物などを地図上のルートに沿って紹介している。

研究報告は3編で、江戸時代の白神山地・尾太鉱山における人々の流れと実生活、二ツ井地域の岩石・地質調査、土壌・わき水検査などの物理化学的研究と、人文・自然科学系の幅広い分野にまたがっている。専門・一般を問わず、白神山地の理解を深め自然に親しむための書物として活用されたい。

日本語と英語で読む津軽学入門

ハンナ・ジョイ・サワダ編訳/北原かな子編訳



B5変形判・239頁
定価1,155円

本書は、本学国際交流センターで実際に行われている日英両語による講義から、これまでの内容をもとに編集された津軽文化への入門書である。

第1章では歴史(亀岡文化、弘前藩と城下町、アイヌ、西洋文化の受容、近代化)、第2章では文化(津軽弁、文学、津軽三味線、津軽塗、ごんざし、藍染)、第3章では民俗と自然(イタコやおシラサマ、ねぶた、白神山地)について、それぞれの専門家がわかりやすい日本語で解説し、それに平易な英文の翻訳がつけられている。津軽を学びながら日本語、英語の両方を習得できる趣向を凝らした一冊。

一既刊のブックレットシリーズ

- No.4 いまベトナムは——経済の移行と発展への道のり
- No.3 Dr. 中路の健康医学講座
- No.2 青森県のフィールドから——野外動物生態学への招待
- No.1 転換の時代の教師・学生たち——青森師範学校・弘前大学教育学部祝辞・答辞集

未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の活用戦略

農学生命科学部附属未利用バイオマス研究センター編著



A5判・55頁
定価588円

青森県内のりんご園から出る剪定枝は、青森県の間伐材の量にも匹敵し、毎年15万tにのぼるといわれている。この有効利用は青森県にとって重要な課題であり、「あおり・バイオマス活用総合戦略」でもその重要性が取り上げられてきた。木質系バイオマスとしてのりんご剪定枝の有効利用は、青森県における資源の循環利用という観点からばかりでなく、大気中の二酸化炭素の削減という点からも積極的に取り組む課題である。

本書では、剪定枝の堆肥化からりんご園に帰すという循環型農業の取り組み等、剪定枝の有効利用の可能性をさまざまな角度から模索する。

ひろだい vol.12 2009年3月発行

弘前大学総務部総務課 表紙:弘前大学創立50周年記念会館「みちのくホール」

「ひろだい」に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。下記URLから「大学案内」へお進み下さい。



〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594
E-mail: jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
http://www.hirosaki-u.ac.jp

